

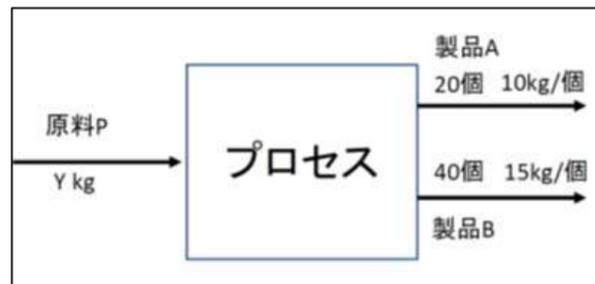
## LCAF 初級検定第 3 回試験問題

注意) 難易度を★で表しています。

★：易、★★：難度低(正答率：50%以上)、★★★：難度中(正答率：50%程度)、★★★★：難度高(正答率：30%程度)

№	試験問題
1	<p><b>Q1 (難易度：★)</b>  <b>&lt;CO<sub>2</sub>問題 「カーボンニュートラル」と「カーボンオフセット」&gt;</b>            次の(1)から(5)の説明の中に、「カーボンニュートラル」の説明として適切なものが一つ、また「カーボンオフセット」の説明として適切なものが一つ含まれている。それぞれの組み合わせの中から、<u>適切なもの</u>を選択せよ。</p> <p>(1) 従来製品に比べて新製品が使用段階で削減できる温室効果ガス排出量を、その新製品の製造段階での温室効果ガス排出量から減算して、温室効果ガスの排出量がゼロであることを示す方法。            (2) LCA を用いて計算したライフサイクル全体での温室効果ガスの排出量を表示する方法。            (3) 自分でどうしても避けることができない排出量を、他者が削減した量を買取ることで相殺する方法。            (4) バイオマスを燃焼しても固定化された大気中の CO<sub>2</sub> が再び大気中に戻るだけなので、新たな CO<sub>2</sub> の排出量として計上しないという考え方。            (5) 水素自動車のように使用段階で温室効果ガスを排出しない製品または技術のこと。</p> <p>(a) 「カーボンニュートラル」が(1)、「カーボンオフセット」が(3)            (b) 「カーボンニュートラル」が(2)、「カーボンオフセット」が(3)            (c) 「カーボンニュートラル」が(2)、「カーボンオフセット」が(4)            (d) 「カーボンニュートラル」が(4)、「カーボンオフセット」が(3)            (e) 「カーボンニュートラル」が(4)、「カーボンオフセット」が(5)</p>
2	<p><b>Q2 (難易度：★★)</b>  <b>&lt;4つのフェーズ&gt;</b>            ISO14040:2006 における LCA の 4 つのフェーズに関する以下の記述の中で、<u>適切なもの</u>を選択せよ。</p> <p>(a) 「目的及び調査範囲の設定」で最初に設定したことは、以降の LCA 調査の全体を通じて維持しなければならない。            (b) 「インベントリ分析」では、「製品システム」から環境への排出物だけを算定する。            (c) 「影響評価」では、「製品システム」が環境へ与える実際の被害を算定しなければならない。            (d) 「解釈」では、LCA の結果が調査の目的に合致しているかを精査し、結論として言えることを明確にする。            (e) 「クリティカルレビュー」では、LCA の実施目的が妥当であるかどうかを検証する。</p>
3	<p><b>Q3 (難易度：★)</b>  <b>&lt;CO<sub>2</sub>原単位&gt;</b>            以下の記述の中で、<u>適切なもの</u>を選択せよ。</p> <p>(a) 冷間圧延鋼板など鉄の汎用製品の「資源採掘から製造までの CO<sub>2</sub> 排出量」は、アルミニウム製品のそれよりもかなり大きい。            (b) 鉄製品の資源採掘から製造までの CO<sub>2</sub> 排出量を分析すると、鉄鉱石や石炭を採掘する時の CO<sub>2</sub> 排出量が大きな割合を占める。            (c) 鉄製品の資源採掘から製造までの CO<sub>2</sub> 排出量を分析すると、鉄鉱石や石炭を海上輸送する時の CO<sub>2</sub> 排出量が大きな割合を占める。            (d) 鉄鉱石は酸化物として採掘されるので、それらを還元するために炭素が使われる。それが鉱石中の酸素と反応して CO<sub>2</sub> として排出される。            (e) 紙製品はカーボンニュートラルとみなせるので、資源採取から製造までの CO<sub>2</sub> 排出量はほとんどゼロになる。</p>
4	<p><b>Q4 (難易度：★)</b>  <b>&lt;比較主張&gt;</b>            「一般開示を意図する比較主張」を実施する時の制約事項に関する以下の記述の中で、<u>不適切なもの</u>を選択せよ。</p> <p>(a) 機能単位を同一にして比較しなければならない。            (b) 影響評価は実施者の価値観が反映されるので、インベントリ分析結果だけを用いなければならない。            (c) 影響評価を科学的に妥当な方法で影響領域ごとに実施する。            (d) 環境影響の重み付けは実施者の価値観が反映されるので実施が禁止されている。            (e) 利害関係者を含めたクリティカルレビューを実施しなければならない。</p>
5	<p><b>Q5 (難易度：★★)</b>  <b>&lt;LCA の用語&gt;</b>            以下の用語の説明の中で、<u>不適切なもの</u>を選択せよ。</p> <p>(a) 「製品システム」は、対象とする製品のライフサイクルを構成するすべてのプロセスの集合体を言う。            (b) 「単位プロセス」は、製品システムに含まれるデータを収集する最小単位のプロセスを指す。            (c) 「システム境界」は、「製品システム」または「製品システムに含まれない他の製品システム」と自然界との境界を言う。</p>

	<p>(d) 「基準フロー」は、システム境界を通過し、自然界から製品システムに入る物質の流れ、または製品システムから自然界に出る物質の流れを言う。</p> <p>(e) 「機能単位」は、LCA で対象とする製品システムの「機能」を実現する物理的な量を言う。</p>
6	<p><b>Q6 (難易度: ★★★)</b>  <b>&lt;インベントリ分析 実施方法全般、カットオフなど&gt;</b>  <b>インベントリ分析の実施で「カットオフ」に関する以下の記述の中で、<u>不適切なもの</u>を選択せよ。</b></p> <p>(a) 評価対象製品の重量の 1 パーセント以下の部品や素材であっても、重量あたりの環境負荷が他の部品や素材よりも大きいと考えられるものは、LCA 評価の対象に含めなければならない。</p> <p>(b) 評価対象製品を製造する装置や建屋などの資本財の製造に関する環境負荷は、製品の製造に関係がないので、常に評価から除外することができる。</p> <p>(c) 評価対象製品の一部であるが、その環境負荷が小さいことが分かっているので LCA で算定しない部品や素材は、「その他の製品システム」としてシステム境界の外においたことを明確に示さなければならない。</p> <p>(d) LCA の結果への影響が小さいことが分かっている部品や素材のインベントリ分析を実施せず、他の主要な部分の環境負荷と同じとみなす算定が行われる場合がある。</p> <p>(e) 製造工程のデータ取得が困難である部材や素材は、製造方法が似ている部材や素材のデータで代替することが行われる場合がある。</p>
7	<p><b>Q7 (難易度: ★★★)</b>  <b>&lt;簡単なインベントリ分析の計算&gt;</b></p> <p>ある工場では 1 日に部品 A を 100 個及び素材 B を 50kg 使って製品 P を 10 個作っている。この工場では、1 日に 80kWh の電力を消費している。以下の情報を用いて、製品 P の 1 個あたりの CO<sub>2</sub> 排出量を求めた。その結果として、<u>最も近いもの</u>を選択せよ。</p> <p>(情報)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部品 A を 1 個製造するためには、10kg の素材 C と電力 20kWh が必要である。</li> <li>・素材 C を 1kg 製造するまでの CO<sub>2</sub> 排出量 (上流プロセス合算済み) は 0.60kg-CO<sub>2</sub> である。</li> <li>・電力 1kWh の CO<sub>2</sub> 排出量 (上流プロセス合算済み) は 0.50kg-CO<sub>2</sub> である。</li> <li>・素材 B を 1kg 製造するまでの CO<sub>2</sub> 排出量 (上流プロセス合算済み) は 2.0kg-CO<sub>2</sub> である。</li> </ul> <p>(a) 156kg-CO<sub>2</sub>  (b) 174kg-CO<sub>2</sub>  (c) 178kg-CO<sub>2</sub>  (d) 1,740kg-CO<sub>2</sub>  (e) 1,780kg-CO<sub>2</sub></p>
8	<p><b>Q8 (難易度: ★)</b>  <b>&lt;インベントリ分析全般 バックグラウンドデータなど&gt;</b>  <b>インベントリ分析に関する以下の記述の中で、<u>不適切なもの</u>を選択せよ。</b></p> <p>(a) LCA では、システム境界内の単位プロセスのデータすべてを収集することが基本になっている。しかし、すべてのデータを実施者が収集することは困難なので、実際には、調査対象製品に直接関係するフォアグラウンドデータは実測し、間接的に関与するバックグラウンドデータは LCA 用に整備されたデータベースを引用して作成することが多い。</p> <p>(b) ライフサイクル全体で算定された温室効果ガス排出量を製品に表示するカーボンフットプリントではフォアグラウンドデータを 1 次データ、バックグラウンドデータを 2 次データと呼ぶことがある。</p> <p>(c) ある製品製造に係わる素材や部品、燃料などのプロセスを上流まで遡って計算し、基本フローを整理したデータを原単位データと呼ぶことがある。</p> <p>(d) バックグラウンドデータには、大きく二つの種類がある。一つは積み上げ法によるもの、もう一つは産業連関表分析によるものである。産業連関表分析によるバックグラウンドデータは、日本全国の状態を表現しているため、積み上げ法によるバックグラウンドデータよりも常に優先して使用されるべきである。</p> <p>(e) 一つのプロセスから二つ以上の製品が生産されるように見える場合でも、プロセスを詳細に細分化すると、それぞれの製品が個別の単位プロセスで生産されていることが分かる場合は、配分を避けて単位プロセスのデータを作成することができる。</p>
9	<p><b>Q9 (難易度: ★★)</b>  <b>&lt;配分の基礎: 計算しない計算問題&gt;</b></p> <p>以下の図に示すように、原料 P を Ykg 使って、20 個の製品 A と 40 個の製品 B を作っているプロセスがある。製品 A は 1 個あたり 10kg、製品 B は 1 個あたり 15kg である。個数基準で配分して、製品 A と製品 B の 1 個あたりの原料 P の使用量を求めた。その結果として、<u>適切なもの</u>を選択せよ。</p>



- (a) Aのほうが2倍大きい。
- (b) Bのほうが2倍大きい。
- (c) Aのほうが3倍大きい。
- (d) Bのほうが3倍大きい。
- (e) AとBは同じである。

10

Q10 (難易度:★★)

<簡単な配分問題>

40kgのポリプロピレンと20kWhの電力を用い、製品Aを30個と、製品Bを10個製造するプロセスがある。製品Aは1個20円で売れ、製品Bは1個40円で売れる。生産される製品の売上高を基準に配分し、製品Aを1個生産するためのCO<sub>2</sub>排出量を求めた。その結果として、適切なものを選択せよ。

ただし、ポリプロピレンを1kg製造するまでのCO<sub>2</sub>排出量(上流プロセス合算済み)は0.60kg-CO<sub>2</sub>、電力1kWhのCO<sub>2</sub>排出量(上流プロセス合算済み)は0.50kg-CO<sub>2</sub>とする。

- (a) 0.056kg-CO<sub>2</sub>
- (b) 0.57kg-CO<sub>2</sub>
- (c) 0.68kg-CO<sub>2</sub>
- (d) 0.85kg-CO<sub>2</sub>
- (e) 1.13 kg-CO<sub>2</sub>

11

Q11 (難易度:★★★★)

<リサイクル>

廃棄物から再生材料を製造するカスケードリサイクルの環境負荷を、LCAを用いて、リサイクルしない場合と比較する。以下の記述の中で、適切なものを選択せよ。

ただし、廃棄物に至るまでの環境負荷はその上流工程で計上済みのため、ここでは対象外と考える。

- (a) 再生材料を製造するためのエネルギーが必要となるので、リサイクルしない場合の方が環境負荷は小さいと考えることができる。
- (b) 再生材料が新品の材料と全く同じ性質とみなせる場合であれば、新品の材料を製造する場合の環境負荷を、「リサイクルしない場合」に加えて比較する。
- (c) 再生材料もいずれは廃棄されるので、リサイクルする場合もしない場合も廃棄物の量は同じであると考えられる。
- (d) 廃棄物をリサイクルするので、廃棄物の処理にかかるエネルギーの分だけリサイクルする場合の環境負荷が小さい。
- (e) リサイクルする場合の環境負荷からリサイクルしない場合の環境負荷を減算して、リサイクルする場合の環境負荷の削減量を算定する。

12

Q12 (難易度:★★)

<リサイクルのインベントリ分析>

ある工場で単純焼却されていたポリプロピレン廃棄物をリサイクルしてポリプロピレンの再生材料を製造することにした。以下の情報を用いて、このポリプロピレン廃棄物を単純焼却していた時と比べて、1kgのポリプロピレン再生材料を製造することによるCO<sub>2</sub>排出量の増減に関する記述の中で、最も近いものを選択せよ。

ただし、製造される再生材料は、新品のポリプロピレンと全く同じ性能であるとする。

(情報)

- ・1kgのポリプロピレン廃棄物から1kgのポリプロピレン再生材料ができる。このときに必要なエネルギーは1kWhの電力だけである。
- ・新品のポリプロピレンを1kg製造するまでのCO<sub>2</sub>排出量(上流プロセス合算済み)は0.6kg-CO<sub>2</sub>である。
- ・電力1kWhのCO<sub>2</sub>排出量(上流プロセス合算済み)は0.5kg-CO<sub>2</sub>である。
- ・1kgのポリプロピレンの燃焼では3kg-CO<sub>2</sub>のCO<sub>2</sub>が発生する。

- (a) 0.5kg-CO<sub>2</sub>のCO<sub>2</sub>排出量が増加する。
- (b) 0.6kg-CO<sub>2</sub>のCO<sub>2</sub>排出量が減少する。
- (c) 1.55kg-CO<sub>2</sub>のCO<sub>2</sub>排出量が減少する。
- (d) 2.5kg-CO<sub>2</sub>のCO<sub>2</sub>排出量が減少する。
- (e) 3.1kg-CO<sub>2</sub>のCO<sub>2</sub>排出量が減少する。

13	<p><b>Q13 (難易度: ★★★)</b>  <b>&lt;影響評価の一般的な方法と特性化係数&gt;</b>  <b>LCAの影響評価に関する以下の記述の中で、適切なものを選択せよ。</b></p> <p>(a) どのような影響領域の評価を、どのような特性化モデルを用いて行うかを「目的と調査範囲の設定」で決めておく必要がある。  (b) インベントリ分析の結果得られた排出物や消費された資源を関連する影響領域に振り分けるステップを「特性化」と呼ぶ。  (c) 特性化の結果得られた評価結果(点数)を一般的に「フットプリント」と呼ぶ。  (d) 特性化の結果を地域全体の特性化結果と比較して得られた評価結果(点数)を一般的に「フットプリント」と呼ぶ。  (e) 影響評価では、どの影響領域も重要性は均等であるとして、正規化の結果を重み付けせずに合算して総合的評価結果とすることが一般的である。</p>												
14	<p><b>Q14 (難易度: ★★)</b>  <b>&lt;特性化の計算&gt;</b>  <b>下表は、ある製品の温室効果ガスのインベントリ分析結果を示す。地球温暖化への影響の寄与に関する以下の記述の中で、適切なものを選択せよ。</b>  <b>ただし、1kgのCH<sub>4</sub>、N<sub>2</sub>O、CFC-11、HCFC-22の温室効果係数はそれぞれ、25kg-CO<sub>2</sub>eq、300kg-CO<sub>2</sub>eq、5,000kg-CO<sub>2</sub>eq、10,000kg-CO<sub>2</sub>eqとする。</b></p> <p style="text-align: center;">表 ある製品1個のライフサイクルでのインベントリ分析結果</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>基本フロー</th> <th>排出量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CO<sub>2</sub></td> <td>2kg</td> </tr> <tr> <td>CH<sub>4</sub></td> <td>0.2kg</td> </tr> <tr> <td>N<sub>2</sub>O</td> <td>0.02kg</td> </tr> <tr> <td>CFC-11</td> <td>0.0002kg</td> </tr> <tr> <td>HCFC-22</td> <td>0.0002kg</td> </tr> </tbody> </table> <p>(a) CO<sub>2</sub>の寄与が最も大きい  (b) CH<sub>4</sub>の寄与が最も大きい。  (c) N<sub>2</sub>Oの寄与が最も大きい。  (d) CFC-11の寄与が最も大きい。  (e) HCFC-22の寄与が最も大きい。</p>	基本フロー	排出量	CO <sub>2</sub>	2kg	CH <sub>4</sub>	0.2kg	N <sub>2</sub> O	0.02kg	CFC-11	0.0002kg	HCFC-22	0.0002kg
基本フロー	排出量												
CO <sub>2</sub>	2kg												
CH <sub>4</sub>	0.2kg												
N <sub>2</sub> O	0.02kg												
CFC-11	0.0002kg												
HCFC-22	0.0002kg												
15	<p><b>Q15 (難易度: ★)</b>  <b>&lt;重み付けの種類&gt;</b>  <b>多様な環境影響を総合的に判断するために、環境への影響を単一指標で表す方法が開発されている。その方法に関する以下の記述の中で、適切なものを選択せよ。</b></p> <p>(a) エコポイント法は、環境への影響領域(影響カテゴリ)ごとに点数を付け、それらを重み付けする方法である。  (b) エコインディケータ95は、環境への被害を金銭化して合算する方法である。  (c) EPSは、環境への影響領域(影響カテゴリ)ごとに点数を付け、それらを重み付けする方法である。  (d) LIMEは、環境への被害を金銭化して合算する方法である。  (e) LIMEでは、環境への影響領域(影響カテゴリ)の重み付けに企業の主張を取り入れるパネル法を推奨している。</p>												
16	<p><b>Q16 (難易度: ★)</b>  <b>&lt;重み付けの注意&gt;</b>  <b>多様な環境影響を総合的に判断するために、環境への影響を単一指標で表す「重み付け」の方法が開発されている。その方法に関する以下の記述の中で、適切なものを選択せよ。</b></p> <p>(a) 「重み付け」には人の価値観が反映されるので、LCAの影響評価では付加的要素(任意の要素)として実施が義務付けられていない。  (b) 多様な環境影響を総合的に判断する「重み付け」は、製品を比較するとき有用であるので、一般開示を意図する比較主張で実施することが推奨されている。  (c) 環境へ排出された物質による影響を知るための自然科学が進歩すれば、環境への影響を自然科学の知見だけで容易に単一指標に表すことができる。  (d) 環境への影響領域(影響カテゴリ)ごとに付けられた点数を重み付けするためには、政府が政策的に重み付け係数を用いなければならない。  (e) 環境への影響を経済価値に換算して単一指標で表す方法は、被害を詳細に調べているので、人の価値観を排除した方法であるといえる。</p>												
17	<p><b>Q17 (難易度: ★★★)</b>  <b>&lt;ペイバックタイム&gt;</b>  <b>以下小型扇風機Aを小型扇風機Bに買い替えることにした。資源の採掘から製品の製造までのCO<sub>2</sub>排出量(上流合算済み)は、Aが30kg-CO<sub>2</sub>、Bが60kg-CO<sub>2</sub>であるが、消費電力は、Aが10W、Bが5Wである。</b>  <b>電力のCO<sub>2</sub>排出量を0.5kg-CO<sub>2</sub>/kWhとして、この買い替えによるCO<sub>2</sub>ペイバックタイムについて、以下の中で、適切なものを選択せよ。</b></p>												

	<p>(a) 60 時間  (b) 600 時間  (c) 1,200 時間  (d) 12,000 時間  (e) ペイバックしない。</p>
18	<p><b>Q18 (難易度：★)</b>  <b>&lt;LCA の利用① 環境ラベル&gt;</b>  <b>環境ラベルに関する以下の記述の中で、適切なものを選択せよ。</b></p> <p>(a) タイプ I のエコラベルは、環境への影響が大きい製品の使用段階の環境負荷だけを評価するラベルである。  (b) タイプ III のエコラベルは、第三者たる認証機関が定める環境負荷の基準を満たしていることが必要とされる。  (c) タイプ III のエコラベルは、多様な環境負荷の中でも特に重要である GHG 排出量を表示するラベルである。  (d) タイプ I のエコラベルは、日本ではエコマークとして実施されている。  (e) タイプ II のエコラベルを実施する時には、誤解を生まないように政府機関に届け出ることが必要である。</p>
19	<p><b>Q19 (難易度：★)</b>  <b>&lt;LCA の利用② 環境効率、SCOPE3&gt;</b>  <b>以下の記述の中で、適切なものを選択せよ。</b></p> <p>(a) ISO は、国際標準化機構の略であり、電気・電子及び通信分野を含む国際標準規格を発行する機関である。  (b) CSR は、企業の社会的責任の略であり、企業が利益を追求するだけでなく、社会の一員として活動しなければならないという理念を示す。  (c) CFP は、CO<sub>2</sub> ペイバックタイムの略であり、製品製造までの CO<sub>2</sub> 排出量を取り戻す製品の使用期間を意味する。  (d) ESG は、環境、社会、経済の視点で環境活動を評価する方法である。  (e) SDGs は、2015 年に国連が定めた 15 の項目からなる持続可能な開発目標である。</p>
20	<p><b>Q20 (難易度：★★★)</b>  <b>&lt;LCA の活用③ カーボンフットプリント、その他&gt;</b>  <b>カーボンフットプリントに関する以下の記述の中で、適切なものを選択せよ。</b></p> <p>(a) カーボンフットプリントは、対象製品のライフサイクルでの CO<sub>2</sub> 排出量を算定するものである。  (b) カーボンフットプリントの計算結果に占めるそれぞれの部材の割合は、多くの場合、ウォーターフットプリントの場合と同じようになる。  (c) カーボンフットプリントは、製造方法の温室効果ガスの排出量を削減することを目標にしているので、製品の使用と廃棄の段階は算定しない。  (d) カーボンフットプリントは、製造方法の温室効果ガスの排出量を削減することを目標にしているので、製品の製造者が努力によって削減できない電力などの温室効果ガスの排出量は算定に含めない。  (e) カーボンフットプリントの計算では、管理されて生産されている植物の燃焼により排出される CO<sub>2</sub> はカーボンニュートラルとして算定される。</p>